

和歌山県指定文化財（天然記念物）

「紀美野町のヒダリマキガヤ13本」について

ヒダリマキガヤ

学名：Torreya nucifera (L.) Sieb. et Zucc. var. nucifera f. macrosperma (Miyoshi) Kusaka

ヒダリマキガヤは常緑針葉樹であるカヤの一品種であり、種子の表面に左巻きの螺旋状沈線らせんじょうちんせんせんをもつものが多いことから、この名が付けられています。また、通常のカヤと比較して種子の長さが3.3～5cmと大型であるという特徴があります。

カヤの種子には脂肪分が多く含まれていることから、かつて灯明用や食用の油を得るための重要な資源となっていたため、各地で栽培が行われていました。中でも、紀美野町は全国的にみても多数のカヤが群生している場所として知られ、希少なヒダリマキガヤも数多くあるとされてきました。このことは、『紀伊続風土記』に記載があるように、かつて旧美里地域が高野山と関わりが深い地域であったことに関係があります。冬季でも凍らないカヤの油は高野山では灯明用として珍重されたほか、食用の油としても価値が高かったことから、カヤの種子や油は高野山への貢納品こうのうひんとなっていました。そのため、当該地域において、種子が大型なため効率的にカヤ油を収穫できるヒダリマキガヤが意図的に多く植えられていたものと考えられます。

平成27年度から平成29年度にかけて、民間の方々の協力を得て紀美野町内のカヤの分布調査や種子の計測調査を行いました。その結果、ヒダリマキガヤと考えられる個体が25本あることが判明しました。また、確定的ではないもののヒダリマキガヤの可能性が高い個体も20本以上存在することがわかり、当該地域にヒダリマキガヤが高い密度で分布していることが明らかとなりました。

この地域に住む人々がこのヒダリマキガヤを大切に扱ってきた結果、今日まで数多く残されてきたものです。このヒダリマキガヤは学術的価値が高く群としての希少性もあることから、13本が紀美野町のヒダリマキガヤ群として、和歌山県指定文化財「記念物（天然記念物）」に指定されています。



ヒダリマキガヤ



ヒダリマキガヤの種子



ヒダリマキガヤの種子(皮をむいたもの)
螺旋状の線がはいつているのがわかります。

☆☆ ヒダリマキガヤは和歌山県指定文化財（天然記念物）です。樹木の保存に影響を及ぼす行為（土地の掘削、伐採など）を許可なく行うことは法律で禁止されています。また、ヒダリマキガヤが生育している場所は私有地であるため、許可なく立ち入ったり、実を拾ったりしないでください。 ☆☆

